

令和3年度 取組結果

	No.	事業名等	実施日	内容	開催回数・参加人数
理解促進・普及啓発	1	認知症サポーター養成講座	随時	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職場において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを多世代にわたり養成した。	43回 延1,646人 (内訳) 一般254人(15回) 中学生651人(5校) 小学生492人(10校13回) 幼児249人(10園)
	2	ステップアップ講座	令和3年10月13日、19日、27日	認知症サポーター養成講座修了者に、認知症に関する理解を更に深めるための講義、徘徊高齢者SOS模擬訓練、地域で支援活動をするためのグループワーク等を実施し、併せてボランティア登録の説明を行った。	3日間×1回 参加者数19人、延56人(定員20人) ボランティア登録16人
	3	認知症サポーター意見交換会	令和3年4月23日、7月29日、10月20日 令和4年1月20日	ステップアップ講座を修了した登録サポーターの活動状況の報告や意見交換、今後の会としての方針について話し合った。	4回 延67人
	4	図書館との連携事業	令和3年9月	図書館に、認知症の書籍紹介コーナーを設置。また、小学生の親子を対象に、敬老の日特別おはなし会を実施し、高齢者や認知症に関する絵本の読み聞かせを行った。	おはなし会12組28人(定員12組)
	5	周知啓発イベント	令和3年9月14日～18日	9月の世界アルツハイマー月間に地域全体に向けた普及啓発のイベントを開催した。また子育て支援センターや学童保育所へ、読み聞かせに認知症に関する圖書の活用を依頼した。	展示191人、講演会130人、体験112人、相談会3人
相談	1	認知症個別相談会	各地域包括支援センター×月1回	認知症に関する市民からの相談に対応するため、地域包括支援センターで個別相談会を実施した。	52回 3人
	2	地域包括支援センター、病院等の周知		地域包括支援センター、認知症サポート医、かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者の名簿、認知症疾患医療センターをホームページ上に公開し相談先を周知した。	
認知症初期集中支援推進事業	1	認知症初期集中支援事業	初期集中支援チーム検討委員会 令和4年3月書面開催	初期集中支援チームの通用事例1例。検討委員会は書面にて開催し、チームの活動状況と地域の状況について検討した。チーム員と認知症地域支援推進員との情報交換会を開催し、事例を通して情報交換を行った。	支援チーム活動1例 検討委員会1回 情報交換会1回
	2	認知症地域支援・ケア向上事業	毎月第3月曜日	地域包括支援センターに配置する認知症地域支援推進員と、地域の支援体制の構築や、認知症ケア向上の取組みを推進するために検討した。	12回
	3	認知症ケアバス	随時	個別相談、認知症サポーター養成講座などで配布し、周知を図った。	随時
	4	地域づくりの推進		登録認知症サポーターや本庄市キャラバン・メイトの会、医療・介護の関係機関、地域の団体等と連携し、協働で事業を実施することでネットワーク形成を進めた。	随時
介護者の負担軽減	1	オレンジカフェ	地域包括支援センター 月1回×5会場 隔月1回×1会場  任意団体 2会場	認知症の人やその家族、地域住民や専門職が集う、認知症カフェを市内6会場で開催した。また、任意団体2か所については、認知症地域支援推進員が支援を行った。	地域包括支援センター(委託事業) 52回 延510人  任意団体(補助事業) 2か所
	2	認知症家族の会本庄	毎月第4木曜日	認知症の人を介護する家族が集い、日頃の思いを語ったり、介護のヒントを得る場としての家族の会の開催を支援した。	10回 延47人
		本庄市キャラバン・メイトの会	随時	メイトの会に協力を得て認知症サポーター養成講座やステップアップ講座、イベント等の開催をした。メイトの会に出席し、現状把握や支援を行った。	
<p><b>取り組みの結果</b>          ・感染対策を講じて事業継続しました。今年度から始動した本庄市キャラバン・メイトの会と協力・連携してメイトの人材育成を図り、認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症サポーター養成講座の養成者数は1,646人で、前年度を上回っています。ステップアップ講座後サポーターとして新たに登録した方は16人でした。登録サポーターを対象とした意見交換会の中から有志が集まり、オレンジカフェが開始されています。また、初の試みとして、9月の世界アルツハイマー月間に併せ、広報へ特集記事の掲載及び認知症の普及啓発イベントを開催しました。企画・運営にあたり、キャラバン・メイトやグループホームなど地域の関係者・支援者とともに協働し、実施しました。その後、グループホームは情報交換会へとつながっています。          ・事業の運動性、認知症の人本人の視点が弱いとの指摘がありました。令和4年度は、認知症地域支援推進員が中心となって地域の関係者・支援者との繋がりがからネットワーク形成を図り、認知症の人本人の視点を把握しながら、支援ニーズと認知症サポーターをつなぐ仕組みづくりに向けて取り組んでいきます。</p>					